

再発見・牛久第十五話

牛久市文化財保護審議委員

栗原 功くりはら いさお

小川(芋銭)家系譜⑧

佐々木・木村・小川

牛久沼の思い出

城中町 小川春子

昭和58年2月発行、牛久町老人クラブ連合会編、牛久町刊、『お年寄りの書いた郷土のあしあと』という小冊子がある。牛久の歴史資料集に値する小冊子の57名の方々の寄稿文の中に、小川芋銭の長男修一の夫人春子さんの『牛久沼の思い出』がある。次にその全文を写してみた。

私は今昔の春の牛久沼を思い出している。

まこもの美しい緑の茂みの間を渡し舟に乗って何処から来たのか毎年きまって三味線片手にござ殿の来る四五月頃の風景である。

『拝啓ごぶさたしましたが無

もますます元気です！』とひなびた声の老女であった。それはのんびりした昔の沼の思い出である。沼にはじゅんさい毎年新芽をつける其の新芽を舟でつんで来て父芋銭の食事に。亦背黒なまず、どじょう等私は芋銭の食事身のまわりのお世話をした。嫁としてつかえた。うなぎは新地へ買いに行つた。メソウなぎです。沼の生物は他にもいろいろあつた。菱、たにし、うば貝などである。

美しい自然の風景をいつまでものこしてもらい度い。きれいな水の色でなければ生物は生きて居られない。

のんびりとしていた昔は冬の農閑期に観音講と言つて部落民親睦のための行事があります。これは今でもごく簡略されて残っています。何時々々までも後世につゞけて行つてもらい度いと思ひます。

夏の祇園祭も形ばかりになつた。其の代りに今は町をあげて

の盛大なお祭りに代つた。世代の流れにのつて変わつて行く。涙ぐましい皆々の協力が必要である。

私は戦争の犠牲者である。戦争のない平和な世の中ほんとうに有がたく思う。どうか若い方々も牛久町のため歌もおどりも後の世へ受けついでもらい度いと思ひます。

女化原移住民村



小川芋銭が明治37年(1904年)に描いたさしえ『女化原移住民村』。当時の女化の風景が描かれている。このさしえは、榊岩崎美術社刊『小川芋銭さしえ名作選』より、広報うしく昭和57年6月1日号の岡田村成立史その19『女化開拓史(掲載者・栗原功)』に転載したものである。

雲魚亭



雲魚亭。小川芋銭の画室。昭和12年(1937年)の建築。平成16年度に小川家より牛久市に寄贈された。平成22年6月28日に牛久市文化財に指定登録された。